

## 地方出身者の都市における葬儀慣行からみえる「つながり」

### エジプト、アレクサンドリアのソハーグ県出身者を事例として

岡戸真幸(上智大学大学院外国語学研究科地域研究専攻博士後期課程)

本発表は、上エジプトのソハーグ県に出自を持ちアレクサンドリアに移住した者たちやその子孫が、同地で行われ、同郷出身者が催す葬儀に参列する事例を分析することで、彼らが都市に移住した後にどのようにお互いの人間関係を取り結んでいるかを考察する。地方出身者が都市で暮らす中で、故地を同じくする者たちと関係を保ち、新たに開拓し、利用することは、今まで先行研究の中でも触れてこられたが、本発表は、都市生まれの者たちも加えて、葬儀の機会に作られる地方出身者の人間関係の在り方について分析する。本発表の意義は、不定期に行われ、時間の限られた中で行われる葬儀の場が、地方出身者の人間関係の構築と持続の場として、いかに使われているかを明らかにすることによって、葬儀が単に死者に対して哀悼を示す場であるだけでなく、参列者同士にとっても意味のある場であることを示すことにある。

エジプトにおいて、人が亡くなった場合に、日没の礼拝頃から2時間ほどの間に、アザと呼ばれる追悼会が開かれる。会葬者は、入口で喪主一同に弔意を示した後、会場で流れるクルアーンを座って聞く。また、遺体の埋葬は、清められた後、モスクに運ばれ、人々と共に正午または午後の礼拝を済ませた後に墓地に運ばれ行われる。人々が、葬儀に関わる場合、この昼間の埋葬か夜のクルアーンを聞くアザに参列することのどちらかが求められる。

このアザの出席は、ソハーグ県出身者にとって欠かすことのできないものと捉えられている。彼らは、アザの連絡を受け、それが自身の故地または近隣村出身者であった場合に、例えその日に2件以上のアザが開催されたとしても、時間を調整して出ようとする。特に、亡くなった故人の親族から直接連絡をもらった際は、出席すべきであり、それができない場合は釈明が求められる。それは、アザへの参加が、自身が喪主一同と関わりがあり、故人と連絡をもらった相手との関係を理解していることを示す行為でもあるからだ。

アザへの参列の仕方をめぐっては、単に個人としてそのアザに参列し哀悼を示せば良いわけではなく、人々とまとまっていくのが良いとされている。アザの知らせを受けた後は、同村出身者同士で連絡を取り合い、その人たちと共に会場へ赴く。特に、自身の出身地の近隣村の人たちが主催するアザに出席する際は、その傾向が強い。迎える側もそうした人たちを、その村の出身者の一団とみなす。同時に、行く側にとっても、こうした参列方法を取ることは、自分たちを一つの集団とした仲間意識を育むことになる。人々は、アザに参列する際に、自分が催したアザに来てくれた人が関係するアザには出るようにしている。アザへの参列は、周りの人間、さらには、その行き先のアザの主催者たちとの関係の中で、決められる。アザは、お互いの関係を理解した上での甲問の互酬性が成り立つ場となる。

また、ソハーグ県に出自を持つ個人がどのようなアザに出ているのかについて、分析を加える。発表者は、約2年に及ぶ留学期間に、ソハーグ県出身者が作る同郷者団体を調査対象として、地方出身者が都市で作る人間関係の分析を進めており、その調査の一環として多くのアザに出ている。本発表では、発表者がアザに参列する際に常に同行している、ある都市で生まれたソハーグ県に出自を持つこの団体の役員が出たアザについて、その行き先をまとめて表にする中で、この役員が自身とソハーグ県出身者をどのように結びつけているかを明らかにする。本発表で示す表から、彼が自身の故地を中心にその近隣村の出身者たちが催すアザに出ている割合が高い一方で、それ以外のソハーグ県出身者のアザにおいて、自身が現在居住している地域で行われているものに出ている割合が高いことから、自身の親族が多い故地を除くと、現在の居住地で新たに作られた関係がアザの行き先に影響していると考えられる。

アザに出る人の中には、都市生まれの者も多く、ソハーグで育った経験はない。互いの共通項は、故地が同じことであり、現在自身が相続しているか、父の代まで所有していた土地が近いことや、現在も親族がいて、ソハーグに行く機会があることが、互いを新たに引き合わせている。アザに出た人々は、会場で会った人々のことや来なかった人々の消息について、後に語ることが多い。それにより、新たな人を知ることできる。アザでは、短い時間ながらも大勢の人たちが甲問に訪れるため、その会葬者同士であいさつをし、旧交を温める場面もみられ、こうした積み重ねの中で多くの人と会うことが同郷者同士の関係の持続へと結びついている。人々は、故人の死を悼み、自身もその親族と広い意味で関係があることを示し、その感情を共有するために少しの時間でもアザに駆けつけようと努力し、その場を利用することで、都市における同郷者同士の「つながり」を作っている。

【 移住、葬礼、社会的紐帯、上エジプト、アレクサンドリア 】